

民俗資料のわかりやすい展示にむけて

— 旧盆における仏壇のお供え物から —

大 湾 ゆかり¹⁾

Challenges to make the understandable exhibition of the folklore materials;
in the case of the Buddhist altar decorated for the Kyu-bon Festival in Okinawa

Yukari OWAN¹⁾

1 はじめに

沖縄県立博物館・美術館の常設展示は、総合展示室と部門展示室からなる。総合展示は白を基調とした中央大空間を利用して、各時代を象徴する資料を基に沖縄の通史を概観する内容になっている。これに対して、部門展示室は黒を基調にした空間で、自然史、考古、美術工芸、歴史、そして民俗の5つに分かれている。

このうち民俗部門の展示について、平成25年4月から筆者が直接担当することになった。これまで観覧者の目線で見えていた展示だが、今度は見せる側の立場で関わることになったのである。この機会に筆者は、従来の展示構成を尊重しつつも、来館者の目線を意識したわかりやすい展示を作りたいと考えている。民俗の展示は、人々の暮らしの中から生まれた文化全般がテーマになり、衣食住、生業から祭祀儀礼に至るまで多岐にわたる。現展示ではこれらが小テーマごとに整然と配置され見やすくなっているが、一方で説明が物足りないという印象をもった。そこで、手始めに民家の模型コーナーにある仏壇展示について検討することにした。というのも、ここでは一年間の行事ごとに食品サンプルを使ってお供え物の展示替えをしていたからである。

たまたま旧盆の飾り付けの際にもう少しわかりやすく説明し、同時にお供え物を増やそうと考えた。しかし、現在当館にある食品サンプルでは十分な旧盆飾りはできず、イメージするような展示はできないことが判明したので、今年度はパネル等で説明を

増やし、また来年の旧盆に向けてお供え物のアンケートを実施して、現代の旧盆飾りがどのように行われているか調べてみた。

本稿では、このような旧盆展示の試みと、アンケートから見える現代沖縄の旧盆の飾り付け、及び戦前の旧盆の飾り付けを復元するための展示の構想等について述べてみたい。

2 沖縄の旧盆

沖縄の年中行事の中で旧暦の7月13日から15日に行われるお盆は、元旦にならび最も大きな行事のひとつである。祖先の霊を供養する行事で、「シチグッチ」(七月)と呼ばれている。沖縄では、戦後正月は旧暦から新暦へと変わったため、旧正月は糸満等の一部の地域でしか見られなくなったが、お盆に関しては今も全県下、それぞれの家庭で旧盆を受け継いでいる。

本土でお盆は新暦の8月13日から15日までと決まっているのに対し、沖縄の旧盆は新暦では毎年違う日になる。けれども、ウチナーンチュは、夏になると旧盆の日を認識し、その一週間前から墓の掃除をし、お仏壇へのお供え物を準備し、親類縁者に配るお中元を用意する。お盆の日取りは新暦では毎年変化するわけだが、それでもそれに合わせて会社の営業休暇等が取られる。

こうした沖縄独特の旧盆行事は、沖縄の祖先崇拝の儀礼として各家に受け継がれてきた。とくに、祖霊を迎えるための仏壇飾りやお供え物にはいろんな

1) 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち 3-1-1.

Okinawa Prefectural Museum and Art Museum, Omoromachi 3-1-1, Naha City, Okinawa Prefecture 900-0006, Japan

意味が込められており、ウチナーンチュが先祖に対してどのように気遣い、供養するのかがよく現れている。

まず、旧暦7月7日は「タナバタ」と呼ばれ、お墓の掃除を行い、焼香をして祖先の霊にお盆が近づいていることを知らせる。お盆は祖霊を家に招く行事なので、その準備として、位牌を清め、香炉をきれいにし、仏壇に花や提灯、お供え物を飾る。いよいよ13日になると夕方家族一同集まって線香を焚き、「ウンケー」（お迎え）をする。それから、15日まで帰ってきている祖霊を歓待するため仏壇に朝昼夕と料理を供え、またその間に親戚や門中を回って線香をあげる。15日は「ウークイ」（お送り）の日で、晩遅く祖霊を送る行事を行う。仏壇にはウークイの料理を供え、家族で拝んでから祖先があのお世で金に困らないようにとウチカビ（紙銭）を燃やす。最後に、お供え物や線香、ウチカビ等をまとめて屋外に出し、再び拝んで送り出すのである。

このような儀礼が一般的だが、行事の内容には地域や家ごとによって違いが見られる。しかし少なくとも、この3日間に行われる儀礼や出される料理には、祖先を敬い、一年の恵みに感謝する気持ちがこめられているといえる。

現在も変わらず行われている沖縄の旧盆だが、時代の流れとともにお供え物の内容も随分変わってきたようである。現代風にアレンジされた旧盆料理としては、オードブルやフライドチキン等、家族が食べやすい料理も登場しているという。一方で沖縄の伝統的な食材を使った伝統料理、御三昧（ウサンミ）等は、今ではスーパー等で重箱の形で注文することができるなど、形を少し変えつつも伝えられている。

3 博物館の展示における仏壇料理

前章で説明したとおり、沖縄の旧盆では祖霊を迎えるため仏壇を飾り付け、またお盆期間中にいろいろな料理をお供えする。この内容は時代とともに変化してきているが、現代風のお供え物は、実際には戦前まで飾り付けられていた品物が代用されて変化したものだという。たとえば、アダンがパインになり、ナシカズラがブドウに、ボージ（粘土で盛った半球）がミカンやリンゴ等に変わった。当館の民俗展示は、戦前の沖縄の暮らしを再現しているので、

当時のお供え物を展示しなければならない。したがって、今では見られなくなった供物を再現していく必要がある。

当館では、新館移転にともない常設展示がリニューアルされ、そのとき展示方法も検討された。そして、現資料を補完する形で参考資料として様々なレプリカが製作された。たとえば、民具の使用手法や祭祀儀礼の神女、道具等をわかりやすく見せるため、人形や模型及び食品サンプル等が作られ、展示されている。

このうち食品サンプルは、人生儀礼や魚市、民家の三番座等で常設されているもののほか、仏壇前に年中行事でお供えする料理として作られていた。現在、当館にある仏壇用サンプルは以下の通りである。

- ・重箱2セット（お餅・御三昧各4個）
- ・お皿2セット（お餅・御三昧各2個）
- ・ムーチャー2個　・フチャギ2個　・ポーポー1個
- ・チンルン1個　・アマガシ2個　・餅1個
- ・コーガーシー1個　・ジューシー1個
- ・赤飯2個　・クーブイリチャー1個
- ・大根の酢の物1個　・三枚肉1個
- ・芋リングク1個　・ソーメン汁2個
- ・イナムルチ1個　・ミンヌク2個
- ・ダーサンウージ（サトウキビ）2本
- ・アダン2個

これらを季節ごとに入れ替えて、仏壇前の台に展示する。今年度も、ユッカの日（5月4日）を皮切りに、旧盆、十五夜、冬至、ムーチャー、そして正月と食品サンプルを出して説明を加えている。

しかし、単に食品サンプルの陳列では、その食べ物と行事との関係がわかりにくい等まだ不十分だと感じたので、筆者は試験的に食品サンプルの横にさらに説明パネルを加え、その行事の内容や供物の解説を加えることにした。その一例が冬至やムーチャーである（写真1）。

こうした試みは、旧盆展示でも行った。旧盆のお供え物は、当館にある食品サンプルでは限界があるため、説明パネルを作って現在と昭和初期のお供え物を図説してみた（写真2）。

実は、このパネルの作成にはかなり苦労した。なぜなら、旧盆のお供え物は地域のみならず各家に

よって違いがあるからである。何を基準にするか迷ったあげく、『沖縄県史』や『那覇市史』の記録、あるいは崎原恒新、上江洲均両氏の著作や直接助言をいただきながら、パネルを作成した(図1)。この中で、昭和初期の仏壇には、アダンの実、クガニー(山ミカン)、メーガー(ミョウガ)、クーガー(ナシカズラの実)、砂糖団子、ショウガ、グーサンウージ(精霊の杖用のサトウキビ)、チトゥウージ(お土産用サトウキビ)、ソーローメーシ(メドハギの箸)、ガンシナー(藁の輪)、ボージ(土で固めた坊主)を書き入れた。また、楕円形のぼんぼりを下げ、ウンケイジュージーと酢の物をお膳にのせた。

また、現代との比較をしてもらうため、一般的と思われる仏壇の飾り付けを図説化するとともに、来館者にアンケート調査を行って各家のお供え物について記録してもらった(写真3)。アンケートの方法は、仏壇の絵のアンケート用紙に絵や文字で記入してもらう形式にした。この展示は平成25年8月13日から9月1日までの約3週間、開館日数18日間行っ

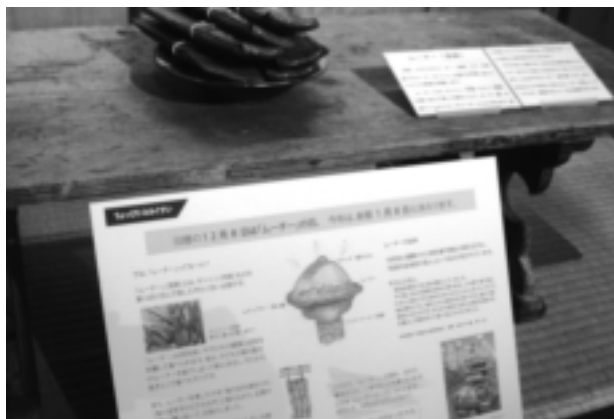


写真1 ムーチーの展示



写真2 旧盆の展示

たが、この間に31枚のアンケートを回収することができ、予想以上の成果を得ることができた。

4 アンケートから見た地域ごとの旧盆のお供え物

今回のアンケートでは31枚回収したが、4枚は県外の方々からで、5枚は地域の特長がでないものであった(表1)。そこで、ここでは県内の地域の記入があった22枚を中心に考察してみた。アンケートは、あらかじめ用意した仏壇の絵に記入してもらう形式で行ったので、集計では元々描いてあった1段目の位牌と花生け2、2段目のお茶2、酒、水、3段目のろうそく2、香炉を除き、アンケート記入者が描いた絵や文字を拾い出して記載した。

それによると、1段目にはサトウキビやパイが見えるものの、多くは2段目にパイやスイカ、メロンといった大型の果物を置いている。3段目には、バナナ、リンゴ、ナシ、ミカン、ブドウ等の果物が見える。ここにサトウキビという記述も複数あり、このうち3件はおみやげ用のチトゥウージであった。4段目にはお菓子やお膳にのせたご飯、重箱等があり、ぼんぼりを置いている例があった。ぼんぼりは宙ぶりにしているものもある。

このうち、那覇市では重箱の記入が多かったが、与那原町ではお膳にのせたご飯との記入であったのが興味深い。また、久米島では米の記述があり、浦添市ではショウガという記述もあった。また、糸満市や宮古島市の方は花生けには葉もののみとある。

このアンケートから、昨今ではお供え用の果物は、パイやスイカをはじめとするもので、サトウキビやショウガ等も残っているものの、戦前のアダ



写真3 旧盆のアンケート

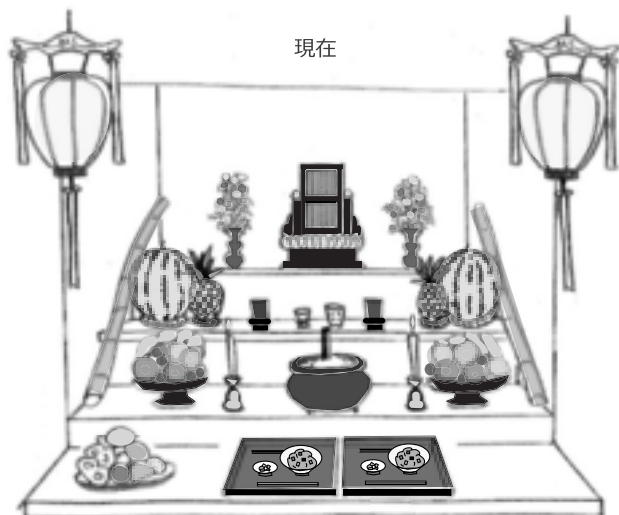
表 1 旧盆の仏壇へのお供えもののアンケート集計表

No.	1 段目	2 段目	3 段目	4 段目	注 釈	地 域
共通	位牌、花生け 2	お茶 2、酒、水	ろうそく 2、香炉			
1		メロン 2	果物 2 (バナナ、リンゴ、ナシ、ミカン、青切ミカン)、サトウキビ (グ) 2	菓子 2、重箱 2、提灯 2	花瓶には葉もののみ	糸満市
2	サトウキビ (グ) 2、スイカ 1	メロン 2	果物 2		「おばあちゃんの家」と記載あり	浦添市
3	遺影	ろうそく		リンゴ、マスカット、メロン、スイカ		浦添市
4		オレンジ、キウイ		ご飯		浦添市
5		スイカ 2、パイン 2	果物 2、サトウキビ (グ) 2、団子 2	重箱 4 (おかず 2、餅 2)		沖縄市
6					線香のみ記載	宜野湾市
7		スイカ 2、パイン 2	果物 (マンゴ、リンゴ、ミカン、ナシ、アボガド)、サトウキビ (グ) 2、ショウガ	中元		豊見城市
8			パイン 2	果物 2、重箱 3、サトウキビ (グ) 2		豊見城市翁長
9		果物 2 (リンゴ、バナナ、ナシ、オレンジ)	菓子 2、一升瓶 1	重箱 2 (餅、御三昧)、パイン 2		豊見城市
10	パイン 2	サトウキビ (グ) 2、メロン 2、スイカ	お盆 2 (バナナ、リンゴ、ミカン、ブドウ)	7.5寸重箱 2、重箱 2 (餅15個)	湯呑みの 1 つは水用	那覇市
11		メロン 1、スイカ 1	果物 1、菓子 1	ぼんぼり 2、ご飯お膳 2		那覇市
12		パイン 1、メロン 1	果物 2、サトウキビ (グ) 2			那覇市
13		パイン 2、スイカ 2	果物 2、サトウキビ (グ) 2	重箱 2、食べ物 1	宙ぶりの提灯 2	那覇市
14		パイン 1	スイカ 1、果物 1 (ミカン、リンゴ、ブドウ)、サトウキビ (グ) 2	ぼんぼり 2		那覇市
15	サトウキビ (チ) 2 (ピラミッド型・赤紙で巻く)	パイン 2、スイカ 2	果物 2 (バナナ、ブドウ、ミカン、リンゴ、ナシ等)、ショウガ、サトウキビ (グ) 2 (上下、赤紙で巻く)	お膳 2、菓子		那覇市首里
16	パイン 2	スイカ 2、提灯 2	果物 (ブドウ、ミカン、リンゴ、バナナ)、メロン 2、ショウガ	サトウキビ (グ) 2、菓子 (カルカン等)	「ばあちゃん家(首里)」と記載あり	那覇市首里
17				菓子、果物 (パイン、ミカン、リンゴ)		南城市
18		パイン 1、スイカ 1	菓子 2	果物 2、ご飯 2、ボンタンアメ 1、サトウキビ (グ) 1	花瓶には葉もののみ	宮古島市
19		パイン 1、スイカ 1	菓子 1、果物 1 (バナナ、リンゴ、ミカン、ブドウ、ナシ)、サトウキビ (グ) 2	ご飯お膳 2		与那原町
20		スイカ 2、パイン 2	果物 2、サトウキビ (グ) 2	ご飯お膳 2		与那原町
21		パイン 1、メロン 1	ぼんぼり 2	果物 1、中元		八重瀬町
22		スイカ 2、パイン 2、サトウキビ (チ) 2	果物 2 (バナナ、リンゴ)、酒瓶、米、サトウキビ (グ) 2	中元		久米島
23	※段の記載なし サトウキビ (グ)、サトウキビ (チ) 1 (赤紙で巻く)、ソーローメーション、台湾香、提灯、果物、菓子盛り、花酒、お膳 5 品 1			パイン、スイカ、メロン、団子、		
24				ウサンデー (?) 2		
25		果物 2 (スイカ等)		ジュシーなどのお供え物 2	宙ぶりの提灯 2	
26		スイカ 1	サトウキビ (グ) 2、パイン 1			
27		パイン 1、スイカ 1	サトウキビ (グ) 1			
28	御本尊		菓子 1、果物 1	キュウリ (馬) とナス (牛)	御本尊が中央にあり、両隣りに位牌が置いている	東京都
29	ほおずき 4	果物 2	蓮の葉	キュウリ (馬)、ナス (牛)、提灯		神奈川県相模原市
30	仏様	写真		菓子、食べ物		横浜市
31		ちらし寿司、煮物、饅頭、果物、そうめん				徳島市

※表中の「サトウキビ (グ)」はグーサンウージを、「サトウキビ (チ)」はチトゥーウージを表す。

旧盆のお供えもののイメージ図

お盆を迎える前の飾りつけは各所、各家によって違いがありますが、一般的な例として現在と昭和初期とを比べてみました。



現在

この図は、位牌・花生け・湯呑み・香炉・ろうそく等は同じにして、お供えものが少しずつ変わったことをイメージで表したものです。実際には家によって昔ながらの飾りつけをしているところもあります。

お茶・お酒・水・生花・ちょうちんの他に…

くだもの（スイカやメロン・パイナップル・リンゴ・ミカン・ナシ・ブドウ等）
ショウガ・グーサンウージ（精霊の杖用サトウキビ）等
菓子（コーガーシ、コンベン・マキガン・かるかん等）



昭和初期

アラungkチャー（アダンの実）¹・クガニー（山ミカン）²・メーガー（茗荷）
クーガー（ナシカズラの実やクハの実）³・砂糖団子⁴・ショウガ⁵等
グーサンウージ（精霊の杖用サトウキビ）⁶・チトウウージ（土産用サトウキビ）⁷
ソーローメーシ（メドハギの箸）⁸・ガンシナー（わらの輪っか）⁹・ポージ（土で固めた坊主）¹⁰

図1 展示解説用のパネル



図2 アンケートの一例

ンやクーガー等は見られなくなった。また、少数ではあるが、今でもチトウウージ（サトウキビを束ねたもの）をお供えしている事例があった（図2）。

5 次年度の展示に向けての構想

このアンケートの結果と文献調査のほか、お盆前に那覇市の公設市場に出かけて旧盆用のお供え物を見て回った結果をもとに、次年度の旧盆に向けた展示の準備をいくつか始めている。

まず、展示のコンセプトは昭和初期にあるので、今回パネルで紹介した品物を中心に、食品サンプルや実物を使用して表現することを考えた。その結果、今回新たにグーサンウージになるサトウキビや、クガニー、砂糖団子、チトウウージの食品サンプルを製作する。ソーローメーシとガンシナーは、現在市販されているものを参考資料として展示する。これらを今も販売している公設市場で、買い物客に聞いたところ、毎年必ずお供えしているとのことであった。

また、グーサンウージは戦前まで主流であった「小笠原種」を探してその型をとることにした。お盆の時に公設市場では小笠原種を扱っている露天の店もあったが、今ではほとんど栽培する農家がなく、これを探すのにも一苦労であった。そこで、筆者が県の農業研究センターに問い合わせたところ、品種として栽培しているものがあるとのこと。サトウキビは、今では沖縄の気候に即して台風に近い品種に改良されているが、戦前までは読谷山種と小笠原種しかなかった。明治時代に入ってきた小笠原種は、原種の流れをくみ、幹が太くて節の部分が緑色という特徴がある。繊維が柔らかいので、口に含んで噛むと甘い汁を吸うことができるという。しかし、台風等に弱いため、戦後は他の品種と掛け合わせて改良されていった。今回、レプリカ作成にあたって、同センターの協力により小笠原種をいただいた。これを活かして、戦前の形のグーサンウージを製作する予定である（写真4）。



写真4 小笠原原種のサトウキビ

おわりに

博物館の展示では、史実を伝えるためできる限り現物を使っていくことが必要である。しかし、民俗展示の場合、現物には残りにくい日常の暮らしを表現するため、補助になる資料の存在は不可欠である。とくに、食物等を表現するときは、現物展示ができないためサンプル資料に頼るしかない。さらに、サンプル資料を活用することで来館者の視覚に訴えやすく、わかりやすい展示に結びつくといえる。

したがって、今回も旧盆の展示について検討するうちに、必要最小限のサンプル資料をそろえて表現

することを目指してみた。これから資料がそろった段階で、これらの食物がお供えされている意味について説明パネルを設け、沖縄の伝統的な旧盆の形を表現したいと思う。そうすることによって、現代風に変化していく中であって、今も受け継がれている沖縄の盆行事について比較してもらうことができ、お供え物の意味も伝わるのではないかなと思う。

今回、あまり準備もできず調査も不十分なまま新しい展示を試みたが、つぎの旧盆展示までにはさらに詳しくわかりやすい展示にしていきたいと思う。

最後に、昨年の展示に際してご助言いただいた崎原恒新氏、上江洲均氏、サトウキビについてご教示いただいた農業研究センターの伊禮氏、及びアンケート調査にご協力いただいた皆様に感謝して、本稿を終えることにする。

参考文献：

- 琉球政府『沖縄県史』（第22巻各論編10 民俗1）、1972
- 那覇市企画部市史編集室『那覇市史』（資料篇 第2巻中の7）、1979
- 崎間恒新『ハンドブック沖縄の年中行事』沖縄出版、1989
- 平敷令治『沖縄・奄美の衣と食』明玄書房、1974
- 崎間麗進・多和田真重『沖縄・暮らしの大百科－冠婚葬祭・年中行事・風水』那覇出版、2004